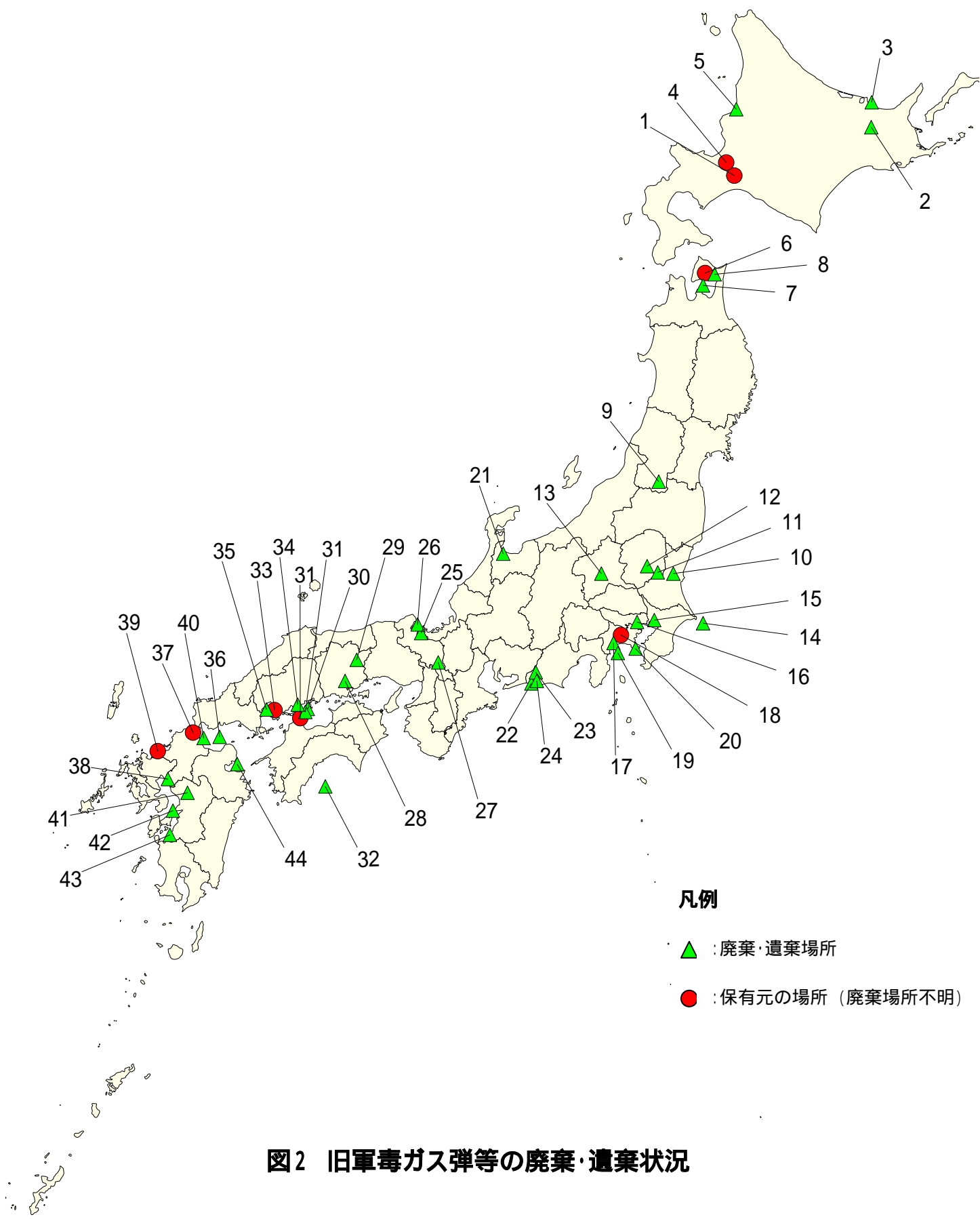


4.2.2 旧軍毒ガス弾等の廃棄・遺棄状況

- (1) 本調査項目について、1の調査項目(旧軍毒ガス弾等の生産・保有状況)と同様に、国内外の資料、政府公報等による情報提供の呼びかけにより、幅広く関連情報を収集した。収集した関連情報は、専門家による助言・検討を踏まえて、取りまとめた。
- 終戦時における毒ガス弾等廃棄・遺棄状況は図2及び表7のとおりである。
- (2) 廃棄方法は、おおむね次のとおりであった。
- 旧軍毒ガス弾等の廃棄は、米軍進駐後に、在日米兵站司令部の命ずるところによって、実施された。廃棄方法は焼却破壊及び海中投棄が最も安全なものとして採用されたが、主としては海中投棄であった。日本人作業員は専ら投棄船の操縦及び投棄作業の実施に用いられ、監督の任にあたる在日米軍は看視船を同行するか又は飛行機から看視することによってその実施作業を監督した。なお、監督の目を逃れ、しばしば投棄指定場所が侵犯された旨が残存資料に指摘されている。
- (3) 遺棄方法は、おおむね埋設、海中投棄、焼却等であり、旧軍毒ガス弾等の遺棄は、終戦時から米軍進駐前に実施された。遺棄については、公文書等が残存しないため、環境省および都道府県等に提供された証言等に基づき、情報を取りまとめた。



凡例

- ▲ : 廃棄・遺棄場所
- : 保有元の場所 (廃棄場所不明)

図2 旧軍毒ガス弾等の廃棄・遺棄状況

表7. 旧軍毒ガス弾等の廃棄・遺棄状況

地図記載番号	保有部隊等	廃棄先	年月日	イベリット	ルイサイト	青酸	ジフェニルシアンアルシン	クロロアセトフェノン	砲・爆弾	廃棄(米軍・豪軍)	遺棄(旧軍、民間)
1	海軍航空廠千歳工場	投棄場所記載なし	昭和21年8月頃	3,689ton						米軍監督下に海中投棄(投棄場所記載無し)	
2		屈斜路湖	昭和20年夏						ガス弾60発		投棄(屈斜路湖)
3	第41海軍航空廠美幌分廠	網走沖	昭和20年夏						ガス弾100発	一部米軍引渡し	大半を網走沖投棄
4	北海道陸軍兵器補給廠厚別弾薬庫	埋設場所記載なし	昭和20年9月15日	ドラム缶1							地中に埋設(埋設場所記載無し)
5	北海道陸軍兵器補給廠厚別弾薬庫	留萌市内の廃坑	昭和20年9月15日					貨車7両分催涙弾(くしゃみ剤との情報も有り)			小樽留萌沖に投棄を試みた後、留萌峠下に埋設
6	大湊警備府	投棄場所記載なし	昭和20年8月						ガス弾2000発(3000発保有のうち、1000発は北海道へ移動)		米軍到着前に海中投棄
7	海軍(大湊警備府)	陸奥湾	昭和20年8月24日・25日頃の2日間						60～100個の毒ガス弾等		米軍到着前に海中投棄
8	記載無し	大曲地区	終戦時						ドラム缶(中身不明)100～200本程度		埋設
9	山形県米沢市第六陸軍技術研究所米沢分室	米沢市	終戦時	若干			若干				米沢郊外で焼却
10	東部37部隊	東部37部隊練兵場内	昭和20年8月	少量							練兵場で焼却
11	記載無し	教育施設	昭和20年8月	500～1,500g							埋設
12	記載無し	栃木県宇都宮市戸祭町(洞窟内)	昭和55年3月3日～同13日						93式持久ガス現示筒(くしゃみ剤ジフェニルシアンアルシン)184本	コンクリート被覆で密封後、5月9日に海中投棄	
13	予備士官学校のガス庫	相馬原	昭和20年8月末						毒ガス弾薬箱30箱程度		処分方法不明
14	長野、福島、静岡などから	銚子沖等(銚子沖、犬吠崎、鹿島沖、利根川河口)	昭和20年10(11)月～昭和21年5月	450ton							「固形ガス弾」は君ヶ浜で焼却、1945年10(11)月～1946年5月まで鉄製樽型容器1,350個分を銚子沖に投棄(水深100～200m)
15	習志野学校	習志野市、船橋市	終戦時	イベリット缶量不明	6ton	若干					中和後敷地内埋設。一部海中投棄
16	第六陸軍技術研究所	新宿区	終戦時		100kg						焼却処分(あるいは米軍引渡し)
17	陸軍技術研究所吉積出張所	吉浜	終戦時	若干	若干						保有量の内若干を海浜に投棄
18	第1海軍航空廠(厚木)	投棄場所記載なし	昭和21年8月頃	イベリット型薬缶8,852個(内容量計150,484kg)							投棄場所記載なし
19	不明	相模湾	昭和20年8月		2ton						相模湾投棄分として記載
	陸軍第六技術研究所	相模湾	終戦時	イベリット7～8本							海中投棄(相模湾:真鶴沖と初島の間)
	海軍工廠(平塚)	相模湾	昭和20年頃	不明(大量)							海中投棄(相模湾:鳥帽子岩(茅ヶ崎沖)と花水川の中心線)
20	「特別陸戦隊(化兵隊)」横須賀	横須賀市衣笠山	昭和20年8月20日頃	小型ドラム缶4～5本							山中に埋設
21	六陸軍技術研究所高岡出張所	高岡市	昭和20年8月	0.8ton							焼却
22	三方原陸軍教導飛行団(比佐郡)	浜名湖	昭和20年8月17、18日	16ton	2ton						湖に投棄
23	第三陸軍航空技術研究所三方原出張所	引佐郡(中川村)	昭和20年	ドラム缶1本(不確実)							山中に埋設
24	三方原教導飛行団	佐鳴湖	不明	黄剤ドラム缶10本程度							湖に投棄
25	第31海軍航空廠(舞鶴)	第31海軍航空廠(舞鶴)	昭和20年8月						60kgイベリット爆弾約5000発		投棄場所記載なし
26	大阪兵器補給廠祝園	舞鶴沖	昭和20年8月						トラック10台分のあか弾・みどり弾		海中投棄(舞鶴沖)
27	第16師団兵器部	教育施設	昭和20年8月12日、13日	少量							埋設
28	広島陸軍兵器補給廠(三軒屋部隊)	海没のため搬出	昭和20年11月18日～11月24日						中あか筒 124個 発射あか筒 110個 九四式あか筒 60個		投棄場所記載なし
	同上	海没のため搬出	昭和20年11月25日～12月1日						小あか筒 100個 中あか筒 79個 発射あか筒 30個		投棄場所記載なし
	広島陸軍兵器補給廠岡山分廠	海没							中あか筒 4個 小あか筒 4個 発射あか筒 41個		投棄場所記載なし
29	津山陸軍予備士官学校	岡山県勝間田の山中	終戦時	イベリット及びルイサイト各1本(量は半分程度)							山中に投棄
30	東京第二陸軍造兵廠忠海兵器製造所	大久野島周辺海域	終戦時								海中投棄

地図記載番号	保有部隊等	廃棄先	年月日	イペリット	ルイサイト	青酸	ジフェニルシアンアルシン	クロロアセトフェノン	砲・爆弾	廃棄(米軍・豪軍)	遺棄(旧軍、民間)
31	東京第二陸軍造兵廠忠海兵器製造所	大久野島(竹原市)	昭和21年5月～9月18日						クシャミ剤 大 65,933個 中 123,990個 小 44,650個発射筒 421,980個	島内防空壕に埋設、海水・さし粉注入	
	同上	同上		56ton				催涙棒 2,820箱 催涙筒 1,980箱		焼却	
31	東京第二陸軍造兵廠忠海兵器製造所	大久野島(竹原市)	昭和21年9月～昭和22年5月				ジフェニルシアンアルシン 1,390ton			島内に埋設	
	同上	同上	昭和21年11月～昭和22年5月	19ton	40ton	10ton				除毒・焼却後、海中投棄	
	同上	投棄場所記載なし	昭和21年11月～昭和22年5月					10ton		海中投棄	
32	東京第二陸軍造兵廠忠海兵器製造所	土佐沖		海中投棄(土佐沖) 毒液 1,854ton 毒液缶 930ton/7,447缶			990ton/9,901缶	催涙剤 7ton/131缶	60kgガス弾 13,272個 10kgガス弾 3,036個	海中投棄	
33	広島県江田島第11海軍航空廠	投棄場所記載なし	昭和21年8月頃	イペリット型薬缶11,344個(内容量計192,849kg)						海中投棄	
34	広島陸軍兵器補給廠忠海分廠阿波島出張所	阿波島	昭和20年8月または昭和20年10月				チビ(シアン)				焼却
	広島陸軍兵器補給廠忠海分廠阿波島出張所	同上	昭和20年8月または昭和20年10月						あか筒4個入り木枠×50～60箱		退避壕数カ所に埋設
	記載無し	同上	昭和21年1月または昭和21年2月						あか筒約20個×5カ所くらい		砂浜に埋設
35	不明	宮島沖	昭和22年か23年						毒ガスである可能性が高い・通常より一回り小さなドラム缶四、五十本	海中投棄	
36	大嶺	周防灘(宇部沖)	昭和20年12月						イペリット・ルイサイト弾の弾薬箱約5万箱、計100,000発 イペリット、ルイサイト、くしゃみガスが7、8割、残りがホスゲン、青酸(数量は数万～十万発としているが不明確である)	海中投棄	
37	東京第二陸軍造兵廠曾根兵器製造所	投棄場所記載なし	終戦時						50kg投下「瓦斯弾」1403発、15kg投下あか弾3258発		海中投棄(投棄場所記載無し)
	同上	同上	終戦時						投下きい弾955発、投下あを弾448発、投下あか弾3,000発 計4,403発		海中投棄(投棄場所記載無し)
38	第1陸軍予備士官学校	筑後川	昭和20年8月22日頃						トラック3台分		投棄(筑後川河口)
39	小富士村第21海軍航空廠	投棄場所記載無し	1946年8月頃	イペリット型薬缶7個(内容量計119kg)							海中投棄(投棄海域についての記録はない)
40	東京第二陸軍造兵廠曾根兵器製造所	苅田港	昭和20年8月20日前後の3日間						ガス弾・50キロ爆弾軽迫撃弾、野山砲弾		海中投棄(小倉北区藍島付近、苅田港沖、門司区東部の沖合)
41	西部軍教育隊	西合志町	終戦時	イペリット毒ガス300リットル(ドラム缶2本)					イペリット毒ガス300リットル(ドラム缶2本)		井戸に投棄
42	不明	宇土郡三角町	終戦時	イペリットとルイサイト							海中投棄(三角港沖)
43	西部軍8088部隊高射機関砲部隊	水俣市	終戦時						演習用催涙弾、くしゃみ弾		海中投棄(水俣沖)
44	第十二海軍航空廠(大分)	別府湾	昭和20年8月						ガス弾4,000発		海中投棄(別府湾)
	同上	同上	1945年10月末	イペリット鉄方×1,800個(90,000kg)							海中投棄(別府湾豊後水道)
	同上	同上	昭和20年11月25日～12月4日						六番一号陸用爆弾 3,811個		海中投棄(大分港沖と日出港の中間)
	同上	同上	1946年8月頃海中投棄(投棄海域についての記録はない)	イペリット型薬缶2,351個(内容量計39,967kg)							海中投棄(投棄場所不明)